

教材を生かしながら自分事として児童が自分の心を見つめるための工夫
～「自己を見つめ」「自己の生き方についての考えを深める」ために～

【教材名】

お母さんのせいきゅう書（第3学年 / C [家族愛、家族生活の充実]）

※出典：グリュンベルク・作 上村哲也・訳「子供と金銭教育」（『子供研究講座第九巻』）先進社

【ねらい】

当たり前すぎて気付かないでいた家族の愛情に改めて気づき、敬愛の念を深めることは、自分も家庭を営む家族の一員であるという自覚をもつことにつながる。

① 無私の愛で育ててくれている家族の愛情に気づき、敬愛する心を大切にする。



② 家族の一員として積極的に役に立とう、家庭生活に貢献しようという意欲を高める。

明るく楽しい家庭をつくるには家族の一員としてそれぞれの立場から協力して家庭生活に貢献していくことが大切である、ということを考えさせる。

本教材は、2つの場面对比する形で構成されている。だいすけが母親に対して請求書を渡す場面と、母親がだいすけに請求金額400円とあわせて0円の請求書を置く場面だ。

無邪気に自分の働きに対して報酬を求めようとするだいすけの気持ちと、母親の子供に対する深い愛情や家庭で働くことの意味について考えられるように、請求書を比較させながら授業を進行させるのだが・・・。

請求書を書いただいすけの気持ちとお母さんの気持ちを比べることを中心としてねらいに迫ろうとしても、お母さんの気持ちを想像することは児童にとっては簡単なことではないようだ。

〈だいすけとお母さんの気持ち〉



だいすけ

お手伝いしたんだから、お金をもらってもいいよね。
がんばってお稽古に行っているんだから、ごほうびをちょうだい。



かあ
お母さん

お母さんにとって家族はとても大事で、だいすけのことがかわいいんだよ。お金が欲しいとかほめてほしいとかじゃなくて、大好きな家族のために、家のことをやっているのよ。



児童は、だいすけとお母さんの請求書の項目や金額が違うことは理解できる。だいすけの、お手伝いしたらお小遣いをもらいたいという気持ちにも共感できる。

しかし、だいすけへの請求書が0円なのはお母さんが大人だから当たり前だと考える児童も多く、母親の愛情や思いについて考えさせることはとても難しい。

請求書の対比だけで授業を進めてしまうと、数名の児童の発言から、指導者が期待する上記のようなお母さんの気持ちに引っ張るようなことになってしまう。

では、どうしたらいいか……？

『お母さんなんだから0円の請求書にするのは当たり前？』

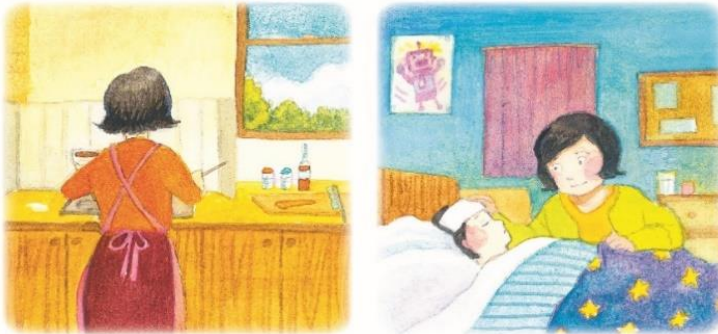
イラストも活用しながら、お母さんの0円の請求書の意味を具体的に考えてみる。

ぼくは、自分のとくになることだけしか、考えていなかったんだ。
それなのに、お母さんは……。



二度、三度読み返している
だいすけ

「……」の部分を考える



仕事で疲れていても、
毎日おいしいご飯を作ってくれる
お母さん

ぼくが熱を出したとき、
やさしく看病してくれた
お母さん



ぼくは大事にされているんだな。
お母さんありがとう。

お金ちょうだいなんて
言ってごめんね。



このように、自分のために働いてくれている母親の具体的な姿を思い浮かべながら、児童は母親の愛情について考え、温かい気持ちになって「ありがとう」という気持ちを表現することができる。

また、お母さんへの感謝の気持ちを抱き、請求書をお母さんに渡して「申し訳なかったなあ」というだいすけの気持ちに共感することもできる。

しかし、その先の、家族の一員として家族の役に立ちたいというところまではなかなか広がっていかない。



後段で、この教材を生かしながら自分自身を振り返る何らかの工夫が必要

授業の後段では、「母親の思い・深い愛」について前段で深めた思いから、「家族を大事にしたい、喜んでもらいたい」、「自分には何ができるか」といった心の芽生えを大切にしたい。

以下は、導入と関連させて家族の思いを具体的に知らせることで、家族の一員ということが実感できた実践例である。



だいすけの気持ちになって、お母さんの思いや家族のことについてみんなで考えてきました。



授業の最初には、みなさんの家族への気持ちを聞きましたね。振り返ってみましょう。

<導入の板書>

○家族がいてよかったなあと思うのは、どんなときですか。

- ・ご飯と一緒に食べているとき
- ・ゲームを買ってもらったとき
- ・旅行に連れて行ってもらったとき

実は、みなさんのおうちの人にも、『どんなときに心がほっとし、どんなときに家族がいてよかったと思いますか』と聞きました。



- ・家に帰ってお風呂に入ると疲れがとれる
- ・家族みんなで食べるご飯が一番おいしいと思う
- ・自分から部屋を片付けている子供を見ると成長したな、と嬉しくなる
- ・誕生日プレゼントに喜ぶ子供の顔を見ると幸せな気持ちになる

どうですか、おうちの人様子を思い浮かべることができたかな。



では、今日勉強したことを思い出しながら、『家族がいてよかったな、家族を大事にしたいな』という今の気持ちを書きましょう。

導入と重なる発問だが、児童は教材から家族の思いについて考えることができているので、自分の家族のことについてさらにしっかり考えを深める記述ができる。

家族の愛情に改めて気づき、敬愛の念を深めることによって、自分も家庭を営む家族の一員であるという自覚をもつことにつながるので、「どんなお手伝いができるか」、「家族のために何を頑張るか」といった具体的な行動について意思決定させるような振り返りにならないように気を付けたい。